

平成19年度 学校評価中間結果の分析と手立てについて(ご報告)

初冬の候、保護者の皆様には日頃より本校教育活動にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、今回は7月に実施いたしました「平成19年度の学校評価中間アンケート」の集計ならびに分析と手立てについてのご報告です。中間結果の公開・ご報告が遅れましたこと、お詫び申し上げます。

7月に実施しました「平成19年度の学校評価中間アンケート」は8月に集計・分析、本稿職員による研修を経て、手立てを検討してまいりました。励ましのお言葉や厳しいご意見をいただきましたが、今後の我々教職員の取組としてすべて活かしてまいります。

以下のご報告いたしました分析と手立てについては「平成19年度 学校経営計画 中間評価結果」も合わせてごらん下さい。ならびに12月には最終の学校評価アンケートとして、質問票を配布いたします。中間評価からの成果をご覧いただき、今年度の評価をしていただければと考えております。よろしく、ご協力お願いいたします。

I 学校評価 中間結果分析

(17の項目)(教職員・生徒・保護者アンケート結果より)

評価は4段階評価で数字は 4:よい、3:まあよい、2:あまりよくない、1:よくない を表し、さらに評価は努力指標(「がんばり」と成果指標(「結果」)の2つで表し、どちらかの評価が3未満であった項目について分析と手立てを検討しました。17項目中、10項目に課題がみられました。

領域 I 学力の向上

(ア) 評価項目 No.2 授業で反復学習を展開し、さらに課題を通して、家庭学習の習慣と基礎基本の定着を図る。
(実施を基礎基本的な内容ごとに行いその実施率を8割以上を目指す-教科によって具体化)

努力指標 3. 1 成果指標 1

- (分析)
- ・家庭学習を定着させる手立てとして、課題を毎時間提出するが生徒の家庭学習の定着を図ることができていない。
 - ・多くの家庭で学習を見てもらうことが困難な状況にあることも背景として考えられることから、課題の提出だけに止まらず、家庭学習を定着させる手立てをさらに工夫する必要がある。
 - ・ミニテストや単元末テストなどを数多く実施しており、2学年では「授業が良く分かる」が77%から89.9%に上がっている。

(イ) 評価項目 No.3 学年や教科で生徒の「学び合い」の展開を中心とした指導の工夫や交流を行う。

努力指標 2. 1 成果指標 2

- (分析)
- ・「学び合い」授業の具体的な内容の研究不足、日々の授業の中で意識していくことが十分にできていない。
 - ・生徒に「学級づくり」の視点から、「係わり合い」、「小グループ活動」を仕組んだり、意義づけができていない。(例えば、班長会が定期的には実施されていない。)そのため、授業で係わり合いを仕組んでも反応が弱く、具体的な目標行動を示すことが出来ない。

- (ウ) 評価項目 No.4 個に応じた指導のため、学期中・休業中に補充学習を計画し、学習の継続性を促す。
(参加率を9割以上目指す)

努力指標 1.6 成果指標 4

- (分析)
- ・教師の目標としている目指す力と生徒の満足のいく学習とのズレは、評価がテスト結果だけに向けられているからではないかと考えられる。1時間1時間の授業の満足度を向上させていくしかない。授業改革は重要である。
 - ・2学年は夏休みに5日間、試験前の朝学習を10回実施し、15回の学習会の実施となった。参加生徒数も120人を越える。(今後、年間で通した場合には努力指標を達成できるものと考えている。)

- (エ) 評価項目 No.5 学力の向上を目指した校内授業研究を行い、本年度は1回行ない、校内研修を実施する。

努力指標 1.7 成果指標 3

- (分析)
- ・校内授業研究会はアンケートを実施した時期にはまだ、取り組んでいなかったため努力指標は低い数値となった。生徒は全学年平均72.9%が「学力がつき、よくわかる」というアンケートでは成果指標が3であった。しかし、1学年が65%、2学年77.2%、3学年76.4%と学年間で差がみられる。

- (オ) 評価項目 No.6 学力の向上を目指した校内授業研究を行い、本年度は1回行ない、校内研修を実施する。

努力指標 1.5 成果指標 2

- (分析)
- ・他校の実践を校内へ広げていく報告の義務づけができてなく、声かけの努力事項になっている。

領域II 豊かな人間性の向上

- (ア) 評価項目 No.10
- ・毎月1回学年合同終学活を実施し、「あいさつをする」、「身だしなみを整える」、「着ベル」について呼びかけ、点検活動をする。
 - ・学校・学年の生徒会活動としてあいさつ運動、遅刻0運動、服装容儀運動を位置づけ、取り組みを生徒により計画、実施する。
 - ・遅刻者0を目指した家庭との連携を含めた取り組みを実施する。
 - ・教職員から生徒へのあいさつを実践する。
 - ・毎週金曜日は「部活動の日」として、全職員が部活動指導を実施する。

努力指標 2.6 成果指標 3

- (分析)
- ・「あいさつの励行」、「服装容儀を整える」、「時間を守る」という3点に対する指導ラインが揃っていない点が課題となっている。1つ1つの指導内容に対して、生徒の行動目標がどのような内容か職員に意識・行動統一されていない。

- (イ) 評価項目 No.11
- ・毎週火曜日を生徒活動の日として設定し、自治活動を指導していく。
 - ・行事後は生徒へ向けても、アンケートを実施する。
 - ・終学活や学活・道徳の時間を通して、クラスの課題や取り組みを一人ひとりの課題として指導していく。
 - ・生徒会のピアサポート活動や学級単位での構成的エンカウンターエクササイズ等を取り入れた人間関係づくりの実践を計画的に実践する。

努力指標 2.7 成果指標 4

- (分析)
- ・教師と生徒の目指すものの違いが評価に表われている。教師としては生徒を自治的組織的に動かしていく手立てを仕組みたいと考えているがそれができていない現実が表われている。生徒は参加し、満足できればよいとし、リーダーとして、大会への役割の意識を持っていない。

- (ウ) 評価項目 No.12
- ・教育相談（面談）期間を年間3回設定する。
 - ・学年通信を毎月1回発行する。
 - ・生活ノートを通した生徒一人一人との教育相談活動を毎日実施する。
 - ・キャリア学習を通して、自立への支援を図る。

努力指標 3.2 成果指標 2

- (分析)
- ・教師側は生徒理解を進めていく手立てとして「生活ノート」、「教育相談」に取り組んでいるが生徒にとって「理解をしてくれている」と感じられていないのは手立てとその内容に工夫の余地があると考えられる。日々の生徒との係わり合いに目を向けた実践を進めていく必要がある。
- ※ 「先生は自分を理解している」という生徒が51%と大きく減っている
(昨年度から見ても10ポイント減)

領域Ⅲ まちぐるみによる教育の推進

- (ア) 評価項目 No.13
- ・ホームページの更新回数の向上と内容の充実を図る。
 - ・学年・学級通信を全学年・全学級で発行していく。
 - ・参観案内をプリントやメール連絡網で実施するだけでなく、懇談会の内容の充実を図る。

努力指標 2 成果指標 2

- (分析)
- ・学級通信は全15学級中、1年が2学級、2年が5学級、3年が2学級の9学級に止まっている。
 - ・学年通信は全学年、各月更新を実施している。
 - ・ホームページ更新は4月、5月、9月、10月、11月、12月と実施。6月～8月の3ヶ月は停止状態のため、9ヶ月中6ヶ月の実施となった。
 - ・参観内容（簡単に）はホームページに掲載していったがメール連絡網での実施はしていない。今後の検討が必要。

- (イ) 評価項目 No.16
- ・PTA活動の内容の見直しと運営の改善を図る。
 - ・教師のPTA活動への全員参加を図る。
 - ・PTC活動を全学級、全学年で実施する。

努力指標 2.6 成果指標 3

- (分析)
- ・PTA活動は活発に実施しているが一部に偏りがちの活動となっている現状がみられる。全PTAへ活動を広げていくためには活動の意義、願いの広報活動に工夫の余地があると考えられる。

Ⅱ 課題に対する今後の手立て

領域Ⅰ 学力の向上

- ・今年度は「学び合い」という取り組みを授業で実践する点では、ほとんどが授業で取り組めていない。今年度内の校内授業研究会で具体的な取り組み項目を示し、教職員全員で一斉に実践を図る。
 - － 年間2回の授業研究会実施
- ・授業における「授業規律定着へ向けての基本」を作成し、全職員で徹底して実践していく。
 - － 着ベル（席についてチャイムを聞く）の実施
- ・学級づくりの一環として、火曜日の生徒会の日に定例の班長会を実施し、学級の課題を生徒の手により取り組ませ、自治力を育成する。
 - － 火・金の放課後利用
- ・職員の研修出張を本校職員の研修に活かしていく場を設定していく。
 - － 研修会での報告会

領域Ⅱ 豊かな人間性の向上

- ・指導を「やりきる」。全職員で指導の取り決め事項の確認と絞った課題に対する具体的実践を進める。具体的には遅刻0へ向けての実践、名札着用や身だしなみの指導、「あいさつ、時間を守る、掃除」の取組等の生活規律づくりの実践を推し進める。
 - － 遅刻指導・校内巡回の実施
- ・日頃より生徒指導上の課題の共有化を図り、手立てを立てる。
 - － 朝のミーティングの充実
- ・カウンセリングについてのレジュメを職員へ伝達講習していく。
 - － 研修会の実施

領域Ⅲ まちぐるみによる教育の推進

- ・学級通信を全学級実施。9学級から15学級実施へ。
- ・定期的な月1回の更新に止まらず、最新情報は随時更新していく。
 - － 更新手続き研修の実施
- ・メール連絡網を利用した連絡内容を不審者情報等の安全に関する内容以外でも工夫・検討し、発信していく。
 - － 行事報告（修学旅行・野外活動）